

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

- 1 自分の意見を堂々と言える能力の育成
- 2 得意技を身に付けさせる
- 3 進路指導の強化

2 中期的目標

1 学力を向上させる

- (1) 学習支援クラウドサービスを活用し、学習到達度の目標を具体的に持たせ、放課後や家庭等での学習の質と量を向上させる。
- (2) 授業を少人数展開や習熟度別に適宜行うことなどにより、学習理解を深化させ、学習内容の定着を図る。
- (3) 土曜日を学習活動のために有効活用させる。
- (4) 1人1台端末を活用するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を図り、教員の授業力を向上させる。
※学校教育自己診断（授業外の学習機会）に対する生徒の肯定的回答を令和8年度まで毎年90%以上を維持する。(R3：91%, R4：88%, R5：90%)
※生徒による授業評価（2回目）で、令和8年度まで毎年、3ポイント以上の教員を90%以上、全教員の授業アンケート総評の平均を3.3以上、それぞれ維持する。
(R3：100%, R4：94%, R5：100%) (R3：3.41, R4：3.37, R5：3.39)

2 思考力、判断力及び表現力を育成し、多様性を受入れる態度を醸成する

- (1) 総合的な探究の時間「IM」やホームルーム等を通して、論理的及び批判的思考力や表現力を育成する。
- (2) 講演会や研修会等を通して、主体的に学び、意見を積極的に述べる態度を育成する。
- (3) 国際交流事業等を積極的に展開し、多様性を受け入れ、他国の人々と協働する態度を育成する。
※総合的な探究の時間「IM」に対する生徒による授業アンケート3.3ポイント以上を令和8年度まで毎年、維持する。(R3：3.47, R4：3.36, R5：3.39)

3 得意技を身に付けさせる

- (1) 英語4技能5領域をバランスよく指導するとともに、特に「話す」「書く」力を向上させることにより、実践的な英語運用能力を育成する。
※CEFRのB1レベル(英検2級相当)以上について1・2年在籍者の10%以上を維持する。[新規]
- (2) 学習活動や課外活動等で知識や技能を向上させる。
※部活動加入率について85%以上を維持する。(R5：87%) [新規]

4 進路指導を強化する

- (1) 進路行事を積極的に展開し、自分の興味・関心等をもとに将来の目標を考えさせられるよう、キャリア教育を推進する。
- (2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的・計画的な進路指導を行う。
- (3) 入学時から大学入試等の情報や教育産業の進路情報を積極的に活用し、進路選択を支援する。
※学校教育自己診断（きめ細かな進路指導）に対する生徒・保護者の肯定的回答を、令和8年度まで毎年85%以上を維持する。(R3：87%, R4：87%, R5：89%)
※令和8年度にめざす大学合格者数（現役生8クラスの延数）

京阪神大、早慶上理大等	他の国公立大	関関同立、GMARCH等	産近甲龍等	外国の大学
10	90	200	300	5
R3 3	68	210	435	0
R4 1	56	187	289	4
R5 4	58	200	437	2

R3,4は9クラス

5 安全安心で魅力ある学校をつくる

- (1) SC及びSSWと連携を密にし、支援を必要とする生徒・保護者への教育相談を行う。
※学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）に対する生徒・保護者の肯定的回答を令和8年度まで毎年85%以上を維持する。(R3：92%, R4：93%, R5：89%)
- (2) 人権教育推進の観点を踏まえ、学校としての方針を定め、効果的かつ迅速に学校運営を行う。
- (3) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。
- (4) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める。

6 校務の効率化と働き方改革を推進する

- (1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
※「校務運営の効率化に向けて各校で導入すべき10項目」の導入を速やかに開始し、令和8年度には10項目の完全実施をめざす。
- (2) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」等を踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。
※時間外勤務月80時間以上の教職員を削減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・「家庭学習によく取り組んでいる(67%)」「得意技を身に付けることを意識している(74%)」という生徒に対する設問では、数値が少し上昇した一方、保護者に対する同じ設問の回答結果は高くない。本校の学校経営計画上の課題の一つである「生徒の学習時間の確保」は達成途上である。 【他の教育活動】 ・「本校に入学してよかった(96%)」「授業以外の学習機会がある(97%)」「教員は親身になって相談にのってくれる(95%)」「進路相談が十分行われている(93%)」という設問では生徒の満足度が大きく上昇した。今後とも、生徒の日々の充実感、教員との良好な関係を維持していきたい。 【学校運営】 ・1人1台端末を活用した授業を行っている」と回答した教職員は54%と上昇したが、引き続き、授業や校務における利活用をさらに推進していきたい。	第1回6月15日 ・円安等の影響で海外研修の行先として英語圏以外を検討するのも良いかもしれない。 ・プログラミング教育は今後必要とされるので、DXハイスクール事業を推進されたい。 ・授業における対話的な活動は学習効果があるのでさらに推進された。 第2回11月15日 ・1回目の授業アンケート結果が高いのは良い。引き続き、授業力の向上に努めてほしい。 ・生徒の多くが来校者への挨拶ができているのは素晴らしい。服装指導なども含めた生活指導がしっかりされている。 第3回3月24日 ・学校の広報については、地元中学校をはじめ地域への発信をさらに強化されたい。その際、できるだけ多くの中学生に高校に来てもらうよう検討されたい。 ・学校教育自己診断の生徒の回答数をさらに増やす工夫を検討されたい。 ・学校が提供する教育活動と生徒のニーズが合っているのか等について、さらに検証されたい。

府立和泉高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価																																																												
1 学力を向上させる	(1) 学習目標・学習方法の明確化と授業外学習時間の向上 (2) 進路・習熟度別に講座編成するなど、学習内容の理解と定着をはかる (3) 課業日以外を有効な学習の機会として活用する (4) 1人1台端末の利活用及び主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を進める	(1) ①各教科の学習到達度を年度当初に明確にし、家庭での学習時間のめやすを示す。 ②平日の授業外学習時間を十分確保し、復習や予習を励行させ、授業理解を促進させる。 ③学習支援クラウドサービスを活用し、自己の学習進度等を管理させる。 (2) ①1・2学年では、国数英に重点を置いた教育課程を編成する。2学年では、数学を進路別、英語を習熟度別に少人数編成を行い、学習効果を高める。 ②授業と予習・復習、小テスト、宿題などの授業を補完する課題を有機的に連動させる。 (3) ①1・2年グローバル科には土曜授業を隔週で実施する。 ②1・2年普通科には土曜授業の時間帯に自宅等での学習を進めさせる。 ③3年生だけでなく、1・2年生にも希望者講習等を積極的に実施する。 (4) ①1人1台端末を利活用した授業を展開するとともに、端末を使って生徒に学習支援クラウドサービスを活用させ、自己の学習進度等を管理させる。さらに、家庭学習時間も増加させる。 ②教員の相互授業見学や Good practice を校内で公開するとともに、観点別評価の円滑な実施を通して、主体的・対話的で深い学びを実現できるように、教科指導力を向上させる。	(1) 教育産業の学力生活実態調査(2回め)において、平日の学習時間を難関大合格者の平均値に近づける。 1年：60分、2年：80分 [新規] (2)(3) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年：国54以上／数54以上／英56以上 2年：国54以上／数54以上／英56以上 普通科 1年：国53以上／数51以上／英52以上 2年：国53以上／数51以上／英52以上 (4) ①生徒の1人1台端末の活用率を60%以上にする [45%] ②授業アンケート(2回め)の「授業展開」3.3以上を維持する [3.47] ③全教員の授業アンケート総評の平均3.3以上を維持する [3.39]	(1) 平日の学習時間平均 1年：42分、2年：50分 (△) ・2年の学習時間が目標値を大きく下回っている。対策を検討したい。 (2)(3) ・教育産業模試(11月)偏差値平均 グローバル科 1年：国53.9／数51.5／英58.0 2年：国53.2／数49.7／英54.8 (△) 普通科 1年：国51.9／数50.4／英50.3 2年：国51.8／数47.7／英48.1 (△) ・グローバル科の国数は目標に届いたが数学は届かなかった。一方、普通科は3教科とも届かなかった。これを受けて1・2年生希望者に「校内予備校」(数英各90分×4コマ)を3月に実施した。 ・学習支援クラウドサービスを導入し、生徒に学習記録を付けさせるなど学習の振り返りをさせた。 (4) ①端末活用率の回答は教員54.1%、生徒63.5%であり、目標値を上回ったと考えられる。(○) ②授業アンケート(2回め)の「授業展開」は3.53であった。(○) ③全教員の授業アンケート総評の平均は3.42であった。(○) ・授業アンケート結果は昨年度よりも上がった。引き続き、分かる授業をめざしていきたい。																																																												
2 思考力、判断力及び表現力を育成する態度を醸成する	(1) 論理的・批判的思考力とともに、論理的な文章を書いたり発表したりする表現力を育成する (2) 主体的に学び、積極的に意見を述べる態度を育成する (3) 多様性を享受し、他国の人々と協働する態度を育成する	(1) ①総合的な探究の時間「IM」等を通して、論理的及び批判的思考力や表現力を育成する。 ②論理的な組立てによる小論文作成力を向上させるとともに、プレゼンテーション力を養う。 (2) ①外部講師を招聘し講演会等を実施する。 ②外部での発表会等に参加する。 (3) ①海外修学旅行を通して、他国の人々と協働する態度を育成する。 ②国内や海外での研修やオンライン交流等を通して、グローバルマインドを涵養する。	(1)(2) ①授業「IM」に対する授業アンケート3.3以上を維持する [1年3.38, 2年3.39] ②LETS 合同発表会等においてプレゼンテーション及びポスター発表を行う [新規] (3) ①実施後アンケートで肯定的な回答90%以上を維持する [98%] ②海外研修等への参加者数40名以上(修学旅行を除く)を維持する。 [77名]	(1) ①授業「IM」1年3.55、2年3.41・ともに昨年度を上回った。(○) ②LETS 合同発表会13名、インフェス2名、高校生EXP04名参加(◎) (2) ①探究に関する講演2回、駐日ポルトガル大使によるEU講演1回、台湾に関する講演2回(◎) (3) ①台湾修学旅行の肯定的回答99.4%(◎) ②国際交流事業参加者数83名(◎) 豪州23名、マルタ4名、国内英語合宿28名、こども夢基金事業3名 国際交流基金関西国際C23名、受入留学生2名 ・探究の推進とともに、受入も含めた国際交流の機会を増やし、発信力や表現力を育成するようにした。																																																												
3 得意技を身に付けさせる	(1) 英語4技能5領域をバランスよく指導するとともに、特に「話す」「書く」力を向上させることにより、実践的な英語運用能力を育成する	(1) ①英語力をCEFR(*)B1-B2に引き上げる。 (※外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠) ②NET を活用し、英会話講座やイングリッシュ・キャンプ等を通して、生徒の「話す」「聞く」力を向上させる。 ③英語の外部試験の受験を奨励する。 ④グローバル科の英語ディベート授業を通して、論理的に英語で表現する力を養う。	(1) ①CEFRのB1-B2レベルについて、以下の人数以上を維持する。 <table><tr><th>学年・学科</th><th>1G</th><th>1S</th><th>2G</th><th>2S</th></tr><tr><td>CEFR(英検)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>B2(1～準1)</td><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>3</td></tr><tr><td>B1(準1～2)</td><td>10</td><td>5</td><td>30</td><td>10</td></tr><tr><td>A2(2～準2)</td><td>67</td><td>234</td><td>45</td><td>227</td></tr><tr><td>在籍者</td><td>80</td><td>240</td><td>80</td><td>240</td></tr></table>	学年・学科	1G	1S	2G	2S	CEFR(英検)					B2(1～準1)	3	1	5	3	B1(準1～2)	10	5	30	10	A2(2～準2)	67	234	45	227	在籍者	80	240	80	240	(1) ①CEFRのB1-B2レベル(△) <table><tr><th>学年・学科</th><th>1G</th><th>1S</th><th>2G</th><th>2S</th></tr><tr><td>CEFR(英検)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>B2(1～準1)</td><td>4</td><td>0</td><td>4</td><td>0</td></tr><tr><td>B1(準1～2)</td><td>9</td><td>7</td><td>15</td><td>14</td></tr><tr><td>A2(2～準2)</td><td>54</td><td>168</td><td>60</td><td>177</td></tr><tr><td>在籍者</td><td>80</td><td>240</td><td>79</td><td>236</td></tr></table> ・英語力は期待値に達していない。今後は、普通科においても4技能5領域をさらにバランスよく指導するとともに、授業以外でも生徒の英語を使う機会を増やしていきたい。	学年・学科	1G	1S	2G	2S	CEFR(英検)					B2(1～準1)	4	0	4	0	B1(準1～2)	9	7	15	14	A2(2～準2)	54	168	60	177	在籍者	80	240	79	236
学年・学科	1G	1S	2G	2S																																																												
CEFR(英検)																																																																
B2(1～準1)	3	1	5	3																																																												
B1(準1～2)	10	5	30	10																																																												
A2(2～準2)	67	234	45	227																																																												
在籍者	80	240	80	240																																																												
学年・学科	1G	1S	2G	2S																																																												
CEFR(英検)																																																																
B2(1～準1)	4	0	4	0																																																												
B1(準1～2)	9	7	15	14																																																												
A2(2～準2)	54	168	60	177																																																												
在籍者	80	240	79	236																																																												

府立和泉高等学校

	(2) 学習活動や課外活動等で知識や技能を向上させる	(2) ①部活動を奨励し、技能や能力等を高めさせるとともに、豊かな心、規範意識及びリーダーシップ等を育む。 ②教科の学習発表や課外活動のコンテスト等への参加を奨励する。	(GTEC for STUDENTS+Speaking(2回目)において、1年生全員と2年生S科はbasic、2年生G科はadvancedを受験した結果) <table><tr><th>学年・学科 CEFR(英検)</th><th>1 G</th><th>1 S</th><th>2 G</th><th>2 S</th></tr><tr><td>B 2 (1～準1)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>B 1 (準1～2)</td><td>8</td><td>3</td><td>21</td><td>5</td></tr><tr><td>A 2 (2～準2)</td><td>66</td><td>175</td><td>56</td><td>169</td></tr><tr><td>在籍者</td><td>79</td><td>235</td><td>79</td><td>237</td></tr></table> ②参加者数 30 名以上 [46 名] ③英検 2 級以上取得者 40 名以上 [62 名] ④英語ディベート指導研修 1 回以上[3 回] (2) ①部活動加入率 85%以上 [87%] [新規] ②府レベルでの入賞数 4 件以上 [7 件]	学年・学科 CEFR(英検)	1 G	1 S	2 G	2 S	B 2 (1～準1)	0	0	0	0	B 1 (準1～2)	8	3	21	5	A 2 (2～準2)	66	175	56	169	在籍者	79	235	79	237	・そのため、海外研修を年に 2 回計画するとともに、グローバル科 1 年生全員対象の英語合宿を計画する。 ②英語合宿28 名、ESS11 名 計 39 名 (○) ③英検 2 級以上取得者 109 名 (◎) ④ 英語ディベート指導研修 1 回 (○) ⑤ (2) ①部活動加入率 93% (◎) ②府レベルでの入賞数 9 件 (◎) ・男子バレーボール部近畿大会出場 ・山岳部(男子団体)大阪大会準優勝 〃 (女子団体)大阪大会優勝 〃 (女子個人) 1 位、3 位 ・水泳部(男子個人)近畿大会出場 ・吹奏楽部 府中央大会銅賞 府アンサンブルコンテスト金賞 ・ダンス部 府芸文祭優秀賞
学年・学科 CEFR(英検)	1 G	1 S	2 G	2 S																									
B 2 (1～準1)	0	0	0	0																									
B 1 (準1～2)	8	3	21	5																									
A 2 (2～準2)	66	175	56	169																									
在籍者	79	235	79	237																									
4 進路指導を強化する	(1) 進路行事を積極的に展開し、自分の興味・関心等をもとに将来の目標を考えさせられるよう、キャリア教育を推進する (2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的・計画的な進路指導を行う (3) 大学入試等の情報や教育産業の進路情報を活用し、進路選択を支援する	(1) ①生徒・保護者対象の教育産業等による進路説明会や学部学科説明会を実施する。 ②大学等に在籍する卒業生や社会人を招聘し、大学での学びや自身の将来の職業等について考えさせる機会を通して、生徒の進路実現に対する動機づけを行う。 (2) ①教育産業による模擬試験の結果を個人・保護者にフィードバックするとともに、教員による結果分析会を行い、進路指導や授業に役立てる。 ②新たに導入する学習支援クラウドサービスを活用し、生徒の学習計画に役立たせる。 (3) ①大学進学のための生徒及び保護者対象説明会を実施し、大学進学に関する情報を提供する。 ②1 年次から大学のオープンキャンパス等への参加を奨励する。また、近隣の国公立大学への見学会を実施する。 ③外国の大学との連携協定等を活かしながら、外国での大学進学を希望する生徒・保護者に情報提供や進学のための指導等を行う。	(1) ・2024 年度大学共通テストの結果 偏差値平均 52 以上の科目を 10 科目以上 (10 人未満の科目は除く) [共通テスト 17 科目中、偏差値 52 以上 9 科目] ・2024 年度入試における現役合格者数目標 【京阪神大、早慶上理大等】 計 3 以上 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・東京理科大等 [4] 【他の国公立大】 計 60 以上 大阪公立・京工繊・大教・奈教・和大等 [58] 【関関同立、GMARCH 等】 計 180 以上 関西・関学・同志社・立命館大 明治・青山・立教・中央・法政・学習院大等 [200] 【産近甲龍等】 計 250 以上 京都産業・近畿・甲南・龍谷大 [437] 【外国の大学】 計 2 以上 中国、台湾 [2] (2) 学校教育自己診断（進路についての面談や相談が十分に行われている）の生徒・保護者の肯定的回答 80%以上をめざす [生徒 90%，保護者 79%] (3) ①進路説明会 各学年及び保護者 1 回以上 [1・2 年 2 回、3 年 1 回、保護者 2 回] ②大阪公立大学、大阪教育大各 1 回以上 [大公大、大教大各 1 回] ③海外大学進学説明会 1 回以上 [2 回]	(1) ・2024 年度大学共通テストの結果 偏差値平均 52 以上の科目 (10 人未満の科目は除く) 15 科目中、偏差値 52 以上は 7 科目 (△) ・大学現役合格数 (△) 【京阪神大、早慶上理大等】 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・東京理科大等 9 人 【他の国公立大】 大公立・京工繊・大教・奈教・和大等 49 人 【関関同立、GMARCH 等】 関西・関学・同志社・立命館大 明治・青山・立教・中央・法政・学習院大等 162 人 【産近甲龍等】 京都産業・近畿・甲南・龍谷大 446 人 【外国の大学】 台湾 2 人 (2) 「進路についての面談や相談が十分に行われている」の肯定的回答 (△) 生徒 90.5%，保護者 67.9% ・引き続き、進路情報を生徒及び保護者に適確に伝えたい。 (3) ①1 年 2 回、2 年 2 回、3 年 1 回、保護者 2 回。 (○) ②大公大、大教大 各 1 回 (○) ③海外大学進学説明会 3 回 (◎)																									
5 安全安心で魅力ある学校をつくる	(1) 支援チームを組織するなど、きめ細やかな教育相談体制を維持する (2) 各学年・分掌が人権教育推進の観点を踏まえ、企画・実行する (3) 中学生・保護者を始め、地域に対しても教育活動等を積極的に発信する	(1) ①SC 及び SSW による生徒・保護者への教育相談を実施する。 ②就学対策委員会等を通して、支援が必要な生徒について情報共有するとともに、必要に応じて合理的な配慮を講じる。 (2) 全ての教育活動において、いじめ防止等の人権教育推進の観点を踏まえた学校運営を行う。 (3) ①スクールライフを正しく理解してもらうとともに、学校の魅力を発信するため、学校説明会や学校案内等の説明資料を改善する。 ②部活動等の課外活動において、中学生や地域との交流を推進する。	(1) 学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）の生徒の肯定的回答 80%以上を維持する [肯定的回答 89%] (2) 学校運営に係る研修等 2 回以上を維持する [服務 1 回、人権教育推進 2 回を実施] (3) ①中学生進路希望調査における本校志願倍率 1.3 倍以上を維持する [第 2 回希望調査 1.18 倍] ②50%以上の部活動(運動部、文化部)が中学生や地域との交流を 1 回以上行う [新規]	(1) 「生徒の相談に丁寧に応じている」の生徒の肯定的回答 93.3% (○) (2) 人権教育に関する研修 2 回 (○) (3) ①第 2 回中学生進路希望調査の本校志願倍率 1.18 倍 (△) ②地域交流 14 部活動 69 回実施 (◎) ・制服を 74 年ぶりに改定するとともに、学校説明会、体育祭、文化祭の内容を改善し、新たな魅力を中学生・保護者・地域に発信した。																									

府立和泉高等学校

	(4) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める	(4) 学校運営に関する意見、提言等を教職員と共有し、学校運営に取り入れる。	(4) 学校運営協議会から出された提言項目をできる限り学校運営に取り入れる [提言 7 項目のうち 5 項目を取り入れた]	(4) 取り入れた提言 4 項目 (○) ・英語圏以外への海外研修、プログラミング教育の推進、授業での対話的な活動、あいさつの励行 ・新たな特色づくりのため、分掌「グローバル教育部」を創設。
6 校務の効率化と働き方改革を推進する	(1) 校務の効率化を図り、教職員の時間外在校時間を削減する (2) 労働安全衛生管理体制を充実させる	(1) ICT 等を活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。 (2) ①「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。 ②「全校一斉定時退庁日」「ノークラブデー」を着実に実施する。	(1) ①「校務運営の効率化に向けて各校で導入すべき 10 項目」を引き続き実施する。 [10 項目実施] ② 教職員の時間外在校時間を前年度より削減する。 [46h22m/人] (2) ①時間外勤務 80 h / 月以上の教職員を月平均 5 人以下にする。 [9.8 人] ②全校一斉定時退庁日(月曜日)に教職員は定時退庁するとともに、全校生徒はノークラブデー(平日)として 16:45 に下校する。[概ね実施できた]	(1) ①「10 項目」を実践した。配付物のデジタル配信が進み、会議・打合せ時間の短縮が短縮された。(○) ② 時間外在校等時間平均 46h31m/人 (△) ・部活動方針の遵守を始め、学校行事の精選や業務の見直しを進めたい。 (2) ① 時間外勤務 80 h / 月以上の教職員 10.3 人/月 (△) ・業務の年間配置や分担体制の見直しに来年度さらに取り組む。 ② 全校一斉定時退庁日とノークラブデー(月曜日) 概ね実施 (○)